



まつかぜ

発行 者
平和学園小学校同窓会
茅ヶ崎市富士見町5-2

発行 日
平成21(2009)年9月20日

編集・印刷
サイン印刷

題 字
学園長 中山 洋 司

同窓会のみなさま、こんにちは

平和学園小学校同窓会長 倉澤 条太

昨秋来の金融危機の影響で、これまでの長期的な少子化による影響のほかに、この春は母校でも入学辞退者が出て、平和学園の将来に心配の種ができてしまいました。

昨年の活動の報告とこれからの計画をお知らせします。ご理解のうえ、それぞれの方ができる形でのご協力をお願いします。

維持会費の変更については多くのかたの支持をいただき、これまでの一律1,000円を上回る厚志を多数お寄せいただきました。これからもどうぞよろしく願いいたします。

同窓会では会員相互の親睦を図るとともに、親睦を通じて平和学園を広く認知してもらう活動をしています。そのひとつとして、山口前同窓会長(現理事長)の時代に小学校バザー当日をホーム・カミングデーとする活動を始めました。懇親会場を設けて同窓生の親交を図ると同時に、バザーへも同窓会コーナーとして参加し、同窓生から寄せられた寄贈品を販売して、わずかですが売上を母校に役立ててもらってきました。昨年のバザーは「まつかぜ」でもお知らせしたように、同窓生の出店を企画して、「内藤行・作陶展示即売」、「竹内剛・創

平和学園小学校の今

平和学園小学校校長 岡崎 一実

平和学園小学校卒業生のみなさま、こんにちは。いつもお祈りのうちに母校をおぼえてくださり、感謝いたします。さっそくこの1年を駆け足でふりかえりながら、小学校の近況をご紹介します。

26人の新生を迎えてスタートした2008年度、1学期のメイン行事である自然教室は2年つづけて雨にたたられハイキングは中止、室内でのキャンドルファイヤーとなってしまいました。それでも子どもたちは元気いっぱい、山中湖の豊かな自然に囲まれ、縦割りのグループ活動を通して平和学園の仲間としての絆を深めた3日間となりました。

2学期のメイン行事は、運動会と隔年で実施している学芸会です。担任の先生方が趣向を凝らしたシナリオを準備し、練習を重ね、10月25日(土)に賀川村島記念講堂で成果を披露しました。今回は期せずしてどの学年も「平和」をテーマとした演目となり、見た者、演じた者それぞれが大切なメッセージを受けとることができました。

そして3学期、尾瀬岩鞍での5、6年生のスキー教室、富士の裾野にある「ぐりんぱ」での3、4年生スケート教室、茅ヶ崎海岸サイクリングロードでの全校マラソン大会を経て、3月14日(土)の第92回卒業式をもって27人の子どもたちが学び舎を巣立っていきました。この学年は入学したときから一度も転出入がなく、6年間ずっといっしょにすごしたクラス

作アクセサリー」、「市村図書・教育玩具」の3者の参加を得て開催することができました。今年はその路線をさらに拡大して、昨年の3者に加えて、野菜朝市(母校の米作り学習の指導をしてくださっている岡先輩)、人気の湘南ブランドSPORTIFFが既に参加を約束してくれています。「私もぜひ!」という方はまだ間に合います。ぜひ、参加してください。今年のバザーは11月3日(火)11時からです。多数の来場をお待ちしています。

ホーム・カミングデーの大きな柱として、同窓生による芸術ギャラリー、コンサートなどをぜひ実現したいと思っています。芸術の分野で活躍している同窓生は大勢いますが、世話人会の人手不足で、残念ながら今年是实现することができません。企画を実現するオーガナイザーというかプロデューサーというような役割をしてくださる方を募集しています。

今年からの企画として、前述のSPORTIFFのCAFEで奇数月に集まる、ミニ同窓会的な会合を持つてみようと思います。7月と9月は試験的にやってみました。次回は11月19日(木)で、大津雄史先生がいらっしゃいます。その後の日程はSPORTIFF CAFEに電話してください。「代表世話人会」なんて堅苦しそうなお合はごめんだけど、呑み会なら…」という方、「(平和学園の)仲間が呑んでるところへちょっと顔を出す」という感覚でぜひのぞいてみてください。

です。強い絆で結ばれた27人をあわせ、創立以来の卒業生が1,600人を越えました。

年度がかわって4月、低迷する経済状況が影響したのでしょいか、例年よりも少なめの23人の入学者を迎え、在籍者149人(うち卒業生のお子さん14人、お孫さんもあり)で2009年度をスタートしたところです。

ところで、平和学園の創立記念日を覚えていらっしゃいますか。4月27日、賀川豊彦先生をお迎えして平和女学校の開校式をおこなった日です。小学校では、毎年この日の前に創立記念礼拝をもち、平和学園ゆかりの方をお招きして子どもたちにお話をいただいています。ここ数年は幼稚園長の橘明子先生、理事長の山口洋一郎さん、今宿在住の岡正司さんをつづき、2009年度は同窓会長の倉澤条太さんをお願いしました。40年ほど前の小学校のようす、先輩たちの学校生活の話に子どもたちは興味深そうに耳を傾けていました(お話の概要は学校ブログ「平和の窓+」で読むことができます)。創立記念礼拝のお話については、これからも卒業生のみなさまにご奉仕いただきたいと思います。お声をおかけしますので、ぜひご協力ください。

賀川豊彦先生の献身100年を記念するこの年、卒業生のみなさまにはこれまでもまして平和学園小学校へのご支援ご協力を賜りたく、どうぞよろしく願いいたします。

なお、今年度のバザーは例年どおり11月3日(火・祝)に、また運動会は10月10日(土)におこないます。卒業生のみなさまのご来校、お待ちしております。

賀川豊彦先生と平和学園

元宗教主任 岡崎 晃



敗戦の年の秋、林間学校の校長に復帰なさった村島帰之先生が、生徒確保のために、様々な困難を乗り越えて“平和女学校”開校に漕ぎ着けられたのは、1946（昭和21）年3月でした。4月27日に開かれた開校記念式典に「タコの武装解除」と題して講演をして下さったのが、賀川豊彦先生の“平和”初登場です。

その後、学校制度の改正を受けて、“学校法人平和学園”が設立され、村島先生が学園長・校長に就任なさって、賀川先生を理事長にお迎えしたのは1951年のこと。60年4月には召天なさいましたから、賀川先生の理事長在任期間は、そんなに長くはありませんでした。とにかく日本中（いや世界中）から引張り蛸のお忙しい方でしたから、実際に生徒たちの前に立たれたことも殆ど無かったのです。けれども賀川先生は“平和学園”ととても深く関わっておられました。直接「賀川先生と平和学園」というよりも、「賀川先生と村島先生」の関係が特に深かったからです。

村島先生が賀川先生と出会われたのは1917（大正6）年のこと。それ以前、すでに神学校時代から、神戸暮合新川部落の貧民窟に住み込んで救援活動しておられた賀川先生が、4年余の働きを中断してアメリカに留学、3年間の学びを終えて再び新川に戻られて2ヶ月後のことでした。当時大阪毎日新聞の敏腕記者として、社会の底辺に生きる人々に目を向けておられた村島先生は、「ドン底生活」という記事を連載中でした。この時の出会いが、お二人を無二の親友として結びつけたのです。私にも経験がありますが、生涯の友との出会いは一瞬にして決まるものです。そのとき抱いた信頼感は、不思議にも裏切られないものです。

以来、大正末期の貧民救済活動、労働組合（友愛会）の組織化、日本農民組合の結成、更には川崎造船の大ストライキの指導、消費者組合（今の生協のはしり）の創設、関東大震災後の救援活動等々に、お二人は常によいコンビとして共に働かれたのでした。賀川先生の大ベストセラー小説（200万部出たとのこと）「死線を越えて」は、村島先生の斡旋で改造社から出版されたものです。

そしてご自身よく語っておられたように、村島先生はこの間に信仰的にも賀川先生に傾倒なさり、1924年7月29日に御

賀川豊彦献身100年

村島帰之初代学園長とともに平和学園を創立された賀川豊彦先生が神戸の貧民街で奉仕活動を始められて、今年で100年になります。それを期して全国規模で“賀川豊彦献身100年記念事業”が行なわれており、中山学園長も実行委員を務めておられます。

賀川先生の業績と記念事業については、“賀川豊彦献身100年記念事業公式ホームページ（<http://www.kagawa100.com/>）”をぜひご覧ください。また、小学校長・岡崎一実先生のお父上である岡崎晃先生に平和学園との関わりについて書いていただきました。

【職員動静】

- 黒岩 唯子先生 2008年7月、退職。
- 高野 裕久先生 2008年9月～2009年3月、常勤講師。
- 勝間亜紀子先生 2009年4月、育休終了・現職復帰。

殿場の東山湖で賀川先生から洗礼を受けられたのです。37年4月、ご病気で新聞社を辞められた村島先生が、白十字会（林間学校の母体）で仕事をなさるようになったのも、賀川先生との関わりによったのだそうです。

こうしてお二人は、40数年にわたり、賀川先生の計画の裏には村島先生が、村島先生の活動の裏には賀川先生がというように、お互いに支えあって来られたのでした。

で、肝腎な平和学園のことですが、「平和女学校」創設には周囲の反対も多く、「平和」という校名にも「時流に阿ねている」と反発があった中で、この企てに賛同なさり、終始村島先生を支え続けられたのは賀川先生でした。52年の記念講演で、「平和という名がついたのは、ほんとうに良かった」と語っておられます。

48年の既存建物の払い下げにも、50年の県有地（8,800坪）の払い下げにも、資金面で多額の協力をして下さいましたのは賀川先生だったのです。理事長以前にもその役割を果たして下さいました訳です。敗戦後、世界に名を知られている最も有名な日本人として超多忙な先生でしたが、直接の関わりは少なくとも、「賀川先生の学校だから」とお子さんを入学させた親御さんが何人もいました。大正、昭和の戦前をして戦後と大きな時代の変化の中で、賀川先生ほど、極端な毀誉褒貶に晒された人を知りません。しかし、村島先生は、賀川先生召天後に記された小文の中で「賀川氏は、かつて一度もその所信を変えたことがないのだ」と言っておられます。

1960年4月29日、青山学院教会で行なわれた賀川先生の葬儀には、ドルカス（基督教青年会）の代表5名と五十嵐礼子先生と私が参列しました。帰ってから村島先生の枕元で逐一ご報告したものです。また、村島先生召天後の65年春には、ドルカス有志で、玉川霊園の松沢教会墓地を訪ねました。大きな墓壁には「主にある友と賀川豊彦ここに眠る」と刻まれています。そこには勿論、村島先生ご夫妻のお骨も納められているのです。

なお、今年は賀川先生が新川の貧民窟に入られてから丁度百年ということで、記念行事の計画が進んでいるそうです。

2008年度会計報告（単位：円）

収 入	2007年度維持会費	1,000
	2008年度維持会費	605,000
	新卒者入会金（27名）	270,000
	バザー売上	28,990
	懇親会会費	29,000
	預金利息	6,623
	前期繰越残高	2,674,432
合 計		3,616,045
支 出	2007年度維持会費振込手数料	120
	2008年度維持会費振込手数料	15,560
	2008年度校友会会費	81,000
	バザー売上より寄附	21,000
	「まつかぜ」7号印刷費	73,500
	「まつかぜ」7号郵送費	88,490
	卒業記念品	73,083
	通信費	6,780
	印刷費	17,320
	会議活動費	21,134
	親睦活動費	46,542
慶弔費	15,750	
消耗品・雑費	210	
次期繰越残高	3,155,556	
合 計		3,616,045

同窓生からの便り

昭和41年卒・野村アセットマネジメント㈱代表取締役会長 稲野 和利



私は、現在、資産運用業務に携わっている。投資信託や年金の運用を行なう業務である。私が働く会社の運用資産残高は20兆円を超えている。驚くほど大きな数字である。他人資産を一定の契約に基づいて、株式市場や債券市場に投資する。責任の重い仕事である。投資するとは、未来を予測するということでもある。未来を予測するためには

どうするか。まさかサイコロを振ってその目で決めるわけにはいかない。過去や現在の経済や企業活動のデータを分析して予測を立てるのである。予測は当たるとは限らない。はずれることもある。未来を予測するために、過去や現在は果たして有用な示唆を提供してくれているのか、という問いに悩み続けているというのが私における日常である。

未来を予測するというのは「畏れ多い」行為である。昨年来、世界的に大きな金融・経済危機が発生した。あらゆる人達が予測を違え、市場は大きく下落した。日本も含め世界各国の経済が危機に直面し、世界的大銀行に公的資金が注入された。なぜ、このようなことが起こってしまったのだろう。金融が

生産・消費等の実態経済に比較して大きくなりすぎた、というのが一つの答である。ではなぜ、金融が肥大化したのか。既に様々な分析が識者の手によって行なわれている。私はここで一点だけ指摘しておきたい。「畏れ多さ」の不足である。「未来を予測するという行為」や「何かをお金の価値に換算するという行為」（金融とはそのようなものである）の「畏れ多さ」を忘れて、突き進んだところに危機の遠因があった、と感じている。「何かをお金の価値に換算する」、それは金融においては必要な行為である。しかし、それが行き過ぎて「全てのものをお金の価値に換算できる」「お金に換算できる価値こそが全てである」となっていくと大きな間違いが発生する。当たり前のことだが、世の中にはお金の価値に換算することはできないが大切なものはたくさんある。

愛・夢・希望・友情・畏怖する心、そういったお金の価値に換算できないが大切なものの多くは、既に小学校の時に意識していたことに今あらためて気づく。潮風に長年さらされ朽ち果てそうな木造校舎であっても、砂地のグラウンドであっても、先生方は意欲的・情熱的であり、我々生徒は元気溼漖であった。知識の体系だけではない多くの大切なことを学んだ。懐かしさと同時に自戒を込めて当時を思い出すことの多いこの頃である。そして、近代的陣容に変貌を遂げた我が母校にあっても、いつまでも「お金の価値に換算できないが大切なもの」を教える場であってほしい、と思う。

校友会人事

平和学園小学校同窓会と平和学園・アレセア湘南同窓会の連合組織である校友会の役員改選が行なわれました。

会長 乾 桂二 (元平和学園小学校同窓会会長・平和学園理事)
副会長 遠藤 大知 (平和学園・アレセア湘南同窓会会長)
副会長 倉澤 条太 (平和学園小学校同窓会会長)
幹事長 山本三千代 (平和学園・アレセア湘南同窓会副会長)

(以下略)

『聖書に遊ぶ』

横山 哲夫



「その頃、全世界の人口調査をせよとの勅令が皇帝アウグストから出た。これはクレニオが…」その次なんだったか憶えていますか？クリスマスが近づくと、毎朝の児童礼拝で、一節ずつ暗唱させられたのを。あの木造のオンボロな講堂で。

この本はそんな生活の中から生まれました。そんなこと本当にあったのかしら、でも

聖書って、なんだか心が休まるような気もする、また読んでみようかしら、などと思っている方もあるかも知れません。

退職して十年ぐらいで、「渚の足跡」というのを作りました。それからまた十年になります。あの頃はワープロでしたが、今はパソコンとプリンターで、印刷、製本も全部自分でやったものです。それにインターネットなんていう摩訶不思議で便利なものがあって、聖画なんかも自分で検索して、スキャナーで取り込んで。そんなことをこちゃこちゃと、ああでもないこうでもない、子どものような遊び感覚で作ったのがこの本です。

真能先生に送ったら大変に喜ばれて、三十年前退職する時買った革表紙の聖書を取り出して、また読んでみようかと思ひます、と書いてくださいました。

「その時は不思議な話ばかりで、まあ神様の世界のことだから仕方ないかと思っていましたが、これを読んだら、今まで

霧がかかったようにもやもやとしていたものが、すっきり晴れてきたような思いがしました。一人で淋しく生活していて、自分だけではどうしようもないことがあると『天の父なる神様…イエス様』と、いつの間にかお祈りしている自分に気がつくことができました。教会に行ったこともなく、洗礼を受けたわけでもないのに…」と、とても真実な、お心のこもったお手紙でした。先生は九州の大分で一人で生活しておられます。

また福島光夫先生からは、「自分の中から出た自分の言葉で語っているのがいい。芳醇な、よく熟成されたぶどう酒のようです。」などと、身に余るお褒めの言葉をいただきました。

いつかある牧師さんに差し上げたら、「本はただでもらったら絶対読まない。」と言って千円おいていかれました。それで一応送料込みで、紙のお金一枚ということにしています、0(ゼロ)三つの。五冊十冊という方には、伝道用ということで、一冊500円で。

「寝る時読むと、10分でぐっすり眠れます。」と、もっぱら睡眠薬としての効果を宣伝しています。副作用無し。ぜひお試し下さい。

【連絡先】

〒231-0852 横浜市中区西竹之丸88

TEL 045-662-2508 E mail amazin27310@yahoo.co.jp



五十嵐先生訪問記

6月末、梅雨の晴れ間に「つるみねホーム」に入居していらっしゃる五十嵐礼子先生を、お訪ねしました。

久しぶりにお目にかかる先生は、ベッドの上で聖書を読んでいたらしい、「少しずつ暗記しているのよ」と仰り、90歳すぎとは思えぬお元気さ。いろいろな事を、よく覚えていてくださり、話はずみ、すぐ失礼するつもりが大分長いおしゃべりとなりました。

帰りがけには、車椅子でエレベーターの前まで送ってくださり、お名残惜しくお別れしました。(岡田枝画子・大澤瑛美)

JAZZ LIVE CONCERT IN CHIGASAKI

予告

開催日：2010年5月15日(土)

会場：賀川村島記念講堂

主催：平和学園アレセア湘南校友会

日本ジャズ界屈指のクラリネット奏者・谷口英治氏が率いる谷口英治SEXTETに、エレガンスを湛えた歌姫と称される野村佳乃子氏をフィーチャーして贈る、ジャズ・ライブを開催します。多数の来場をお待ちしています。詳細は学園ホーム・ページにて情報更新していきます。

谷口英治 SEXTET

谷口英治(cl)、片岡雄三(tb)、右近茂(ts)、袴塚淳(p)、ジャンボ小野(b)、山下暢彦(ds)

第24回 クリスマス・チャリティー パイプオルガンコンサート

日時：2009年12月12日(土) 午後2時から

場所：賀川村島記念講堂

演奏者：西尾純子氏

(弓町本郷教会オルガニスト・日本オルガニスト協会会員)

2010年度児童募集

第1回小学校入学選考

◆願書受付／9月26日(土)～10月2日(金)
(日曜日を除く)

◆募集人員／第1学年 27名

◆選考日／10月20日(火)

第2回小学校入学選考

◆願書受付／10月21日(水)～11月6日(金)
(土・日・祝日を除く)

◆募集人員／第1学年 若干名

◆選考日／11月17日(火)

※運動会 10月10日(土) ※バザー 11月3日(火)

※学校見学・進学相談などは随時承っております。電話でのご予約をお願いいたします。TEL 0467-87-1662

編 集 後 記

まつかぜ新8号をお届けします。今回は同窓生の紹介が奇しくも同級生二人となりました。自薦他薦を問わず、同窓生の紹介、先生の近況等のお申し出を待っています。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 乾 桂二 (30) | 鈴木 信一 (31) | 大村 浪雄 (34) |
| 岡田枝画子 (34) | 大澤 瑛美 (36) | 齋院 民雄 (36) |
| 細谷真由美 (45) | 神戸寿美代 (53) | 竹内 剛 (56) |
- () : 卒業年(昭和)